

平成24年度 宮崎県立高鍋高等学校 自己評価書(年間反省)

平成25年3月6日

◎右記の評価基準により評価する。 4:十分達成できた 3:概ね達成できた 2:やや期待を下回る 1:不十分であり改善を要する  
 ◎1ページ目の学校の重点目標4項目に関する評価は、2ページ以降の、各校務分掌等の関係項目の評価値を平均したものである。

教育目標	「文武両道」「師弟同行」「身心學道」「真善美」「集中・機敏・奉仕」の伝統的教育理念を根幹に据え、知を学び、徳を学び、心身の鍛錬に努め、社会に貢献する生徒の育成を目指す教育を推進することにより、保護者や地域の信頼、期待、ニーズ等に応えられる学校を構築する。													
学校経営ビジョン	「生徒の可能性を最大限に伸ばす高鍋高校」「保護者や地域に信頼される高鍋高校」を学校スローガンとして、全教職員で丸となって（各部、各学年等でもスローガン作成）取り組む。													
重点目標	目標到達のための手段(○数字は本年度特に重点的に取り組むもの)								評価	総括 (○計画が実施できたもの、成果があったもの ●課題の多かったもの)				学校関係者による評価
1 知的行動人の育成 (学力向上・進路実現)	① キャリア教育の充実を図り、進路目標を明確にさせる。 ② 授業研究、教科研修会の充実や「生徒による授業評価」の活用等により、教師が授業力を磨く。 ③ 自宅学習の時間を増やす工夫をする。 ④ 学力に応じた少人数指導・習熟度別指導を導入し、基礎的・基本的事項の定着並びに上位層対策を行う。 ⑤ 読書指導、小論文指導、資格取得指導を計画的に実施する。 ⑥ 学力検討会を充実させる。(分析・対策)								3.1	○キャリア教育に関する生徒研修や職員研修を実施し、意識啓発に努めた。 ○普通科高校におけるキャリア教育に関する全体計画を作成し、キャリア教育委員会を中心に計画的に実施した。特に、1・2学年について企業訪問を中心に、事前研修や事後発表会を実施することができた。 ○授業評価の実施時期については、PDCAサイクルが徹底するよう、実施時期を繰り上げた。 ○少人数授業や習熟別授業の導入により学力の伸びが見られた。 ●幅広い学力層に対応したきめ細かな指導計画、多様化する生徒への指導法の工夫等、様々な対策が必要である。 ○読書指導、小論文、資格取得等の指導が組織的に行われ、成果をあげた。 ●研究授業や、授業研究会については、時間の確保や工夫が必要である。				3.2
2 豊かな心の醸成 (基本的生活習慣の確立)	① 挨拶、時間厳守、服装・容儀など基本的生活習慣の確立を図ると共に、自主性・積極性を養う。 ② 「師弟同行」「集中・機敏・奉仕」の理念のもと環境美化意識の啓発に努める。 ③ 小中高連携、地域社会との連携による社会体験活動を計画的に実施する。 ④ 道徳教育、人権教育、特別支援教育、教育相談の充実を図り、心の教育を推進する。								3	○挨拶、服装、容儀等は概ね確立しており、また、遅刻等も少なく、全体的に品性ある落ち着いた学校生活が送れた。 ○美化活動や地域の奉仕活動にも積極的に取り組み、一定の成果をあげた。 ○いじめアンケートや対策委員会等の回数を増やし、早期の面談や対策・指導等を実施した。 ●交通委員を中心に鍵かけ運動等を実施したが、交通マナー等については、今後も継続して指導する必要がある。 ●公共の場でのモラルやマナーを欠いた行動が見られた。全校集会や学年集会等を実施したが、指導が生徒の心に伝わっていないと感じる場面があった。生徒の規範意識低下傾向は続いており、今後も継続的な指導が必要である。				3.3
3 心身の鍛錬 (文武両道の推進)	① 部活動への参加を促進し、内容の充実にも努め、活動実績の向上を図る。 ② 「文武両道」実現のために、全職員共通理解のもとに、部活動の活動時間を厳守する。 ③ 学校行事への積極的な参加を推進する。 ④ 食育と健康安全教育の推進を図る。(「弁当の日」の推進)								3.1	○多くの生徒が部活動に参加し、各部が良い結果を残した。 ○文化部が活性化し、各種大会での入賞や、高い評価を得た。 ○生徒会を中心に、生徒が主体的に学校行事等を企画・運営し、成功させた。 ●部活動と家庭学習の両立については未だ不十分である。部活動の活動時間や学習との両立については今後の課題である。 ●弁当の日を実施し、普通科の参加率は高まったものの、まだ浸透が課題である。課外があるため、日程設定が難しい。				3
4 保護者や地域に信頼される学校	① 学校公開(一般向け)とオープンスクール(中学生向け)の工夫改善を図る。 ② 積極的に小中学校を訪問し、本校をアピールする。 ③ 保護者に対して、行事への参加を積極的に促す。 ④ ホームページの随時更新と広報誌・パンフレット・ポスター・ゲートボードを充実する。 ⑤ 中高連携を推進する。								3.1	○オープンスクールを生徒が運営に参加する形で実施し、学校公開もよい流れで実施することができた。また、中学校・塾向けの説明会を実施することができた。 ○出前授業や学校訪問を積極的に行い、中学生に本校の良さ、特に新コースについて知ってもらうことができた。 ○文化祭や体育祭に多くの保護者が見学に来た。また、創立90周年事業等の企画を通じて、本校の教育活動をPRすることができた。 ●探究科学コースは定員を満した。普通科の志願者減の傾向を止めることはできなかった。普通科の魅力作りについて新たな対策が必要である。				3
評価方法	各部の評価を重点項目別に平均し、右記の評価基準により評価する。 4:十分達成できた 3:概ね達成できた 2:やや期待を下回る 1:不十分であり改善を要する													
重点項目との関連性	教務部	生徒指導部	進路指導部	図書部	保健環境部	教育相談部	渉外厚生部	広報部	事務部	1学年	2学年	3学年	生活情報科	
1 知的行動人の育成 (学力向上・進路実現)	○		○	○			○		○	○	○	○	○	
2 豊かな心の醸成 (基本的生活習慣の確立)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
3 心身の鍛錬 (文武両道の推進)		○		○	○	○				○	○	○	○	
4 保護者や地域に信頼される学校	○	○	○				○	○	○	○	○	○	○	